

第19回 日本内分泌学会 中国支部学術集会

19th Chugoku Regional Meeting of Japan Endocrine Society

多様性から生まれる内分泌学の発展
—世代・地域・専門を超えて—

プログラム・抄録集

会期

平成30年 8月25日(土)

会場

米子コンベンションセンター BiG SHiP

会長

谷口 晋一 鳥取大学医学部 地域医療学講座 教授



日本内分泌学会中国支部

ご 挨拶

第19回日本内分泌学会中国支部学術集会

会 長 谷口 晋一

鳥取大学医学部 地域医療学講座 教授



この度、第19回日本内分泌学会中国支部学術集会を開催させていただくことになりました鳥取大学の谷口です。

内分泌臨床の面白さは、体内のホメオスタシスを既存の体系のなかで考えながら、さまざまな症候から思考を組み立てて診断に結び付ける点かもしれません。さらに、新たな薬剤による治療の発展もめざましいものがあります。そして、臨床をするうえで、多くの専門診療科と協力して診断治療をおこなう点も特徴的です。このような内分泌学の醍醐味を、ぜひ若手の先生方に感じてもらいたいと考え、今回のテーマを「多様性から生まれる内分泌学の発展 ―世代・地域・専門を超えて―」といたしました。内分泌臓器は、古典的なホルモン分泌器官をこえて心臓や脂肪・筋肉など、予想できなかった臓器も内分泌機能を持つことがわかってきました。その面白さに加えて、内分泌臨床に関わる職種や専門家も多様です。さまざまな専門家が症例を通じて、ひとつの疾患の診断治療にせまるエキサイティングな分野です。ぜひ、多くの演題と踏み込んだディスカッションが生まれたらと願っています。

特別講演には、金沢大学附属病院 核医学診療科 教授の絹谷清剛先生をお招きし、内分泌疾患の診療に大きな役割を果たす核医学の最新知見についてご講演いただきます。また、JES We Can 企画では、鳥根大学の山内先生を中心に「内分泌疾患の手術を円滑に行うための診療科連携」として、関連する診療科の若い医師が興味をもてる内容を企画いただきました。学会会場は米子駅からアクセスのよい米子コンベンションセンターとしました。晩夏の鳥取での開催となりますが、鳥取県西部の米子地区には、伯耆富士の大山を背景に、美しい弓ヶ浜海岸があります。また、新鮮な魚介類や特産の二十世紀梨など、この時季ならではの食体験もできます。この機会に、ぜひ山陰を楽しんでいただけたらと思います。

次世代の内分泌診療にかかわる人たちを含め、多くの皆さんの参加をお待ちしております。

第19回日本内分泌学会中国支部学術集会

開催概要

会 長

谷口 晋一（鳥取大学医学部 地域医療学講座 教授）

会 期

平成30年8月25日（土） 11:50～17:35

会 場

米子コンベンションセンター BiG SHiP

〒683-0043 鳥取県米子市末広町294

TEL：0859-35-8111

FAX：0859-39-0700

中国支部連絡会議

11:50～12:40 3階「第3会議室」

学術集会

13:00～17:35 2階「小ホール」、3階「第3会議室」

JES We Can・第19回中国支部学術集会共同企画パネルディスカッション

13:30～14:30 2階「小ホール」

特別講演

14:40～15:40 2階「小ホール」

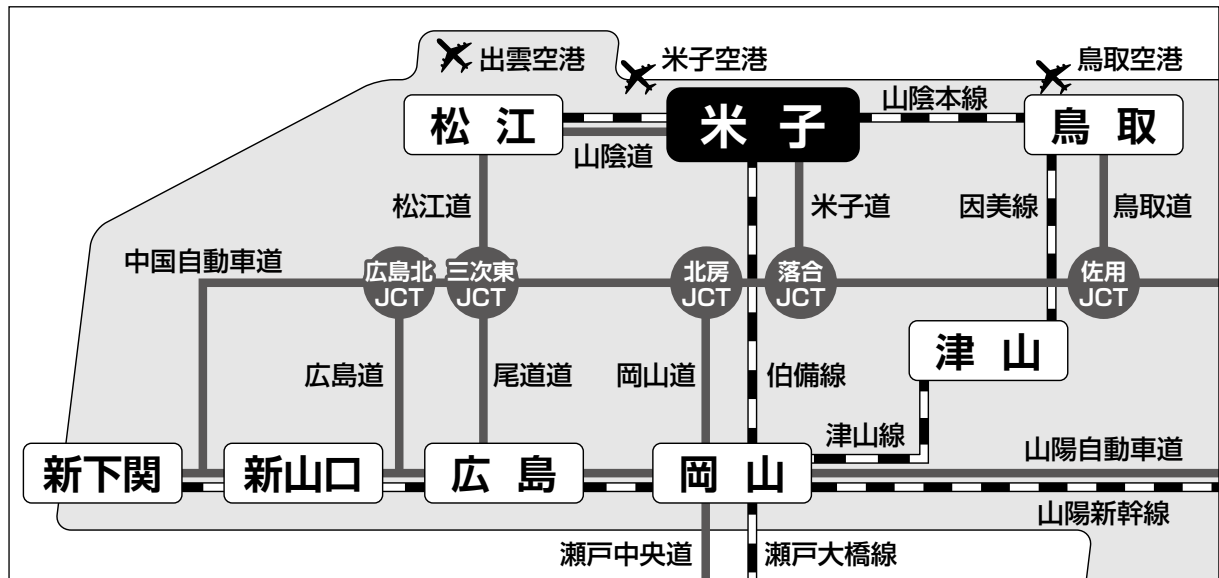
支部総会

15:45～15:55 2階「小ホール」

懇 親 会

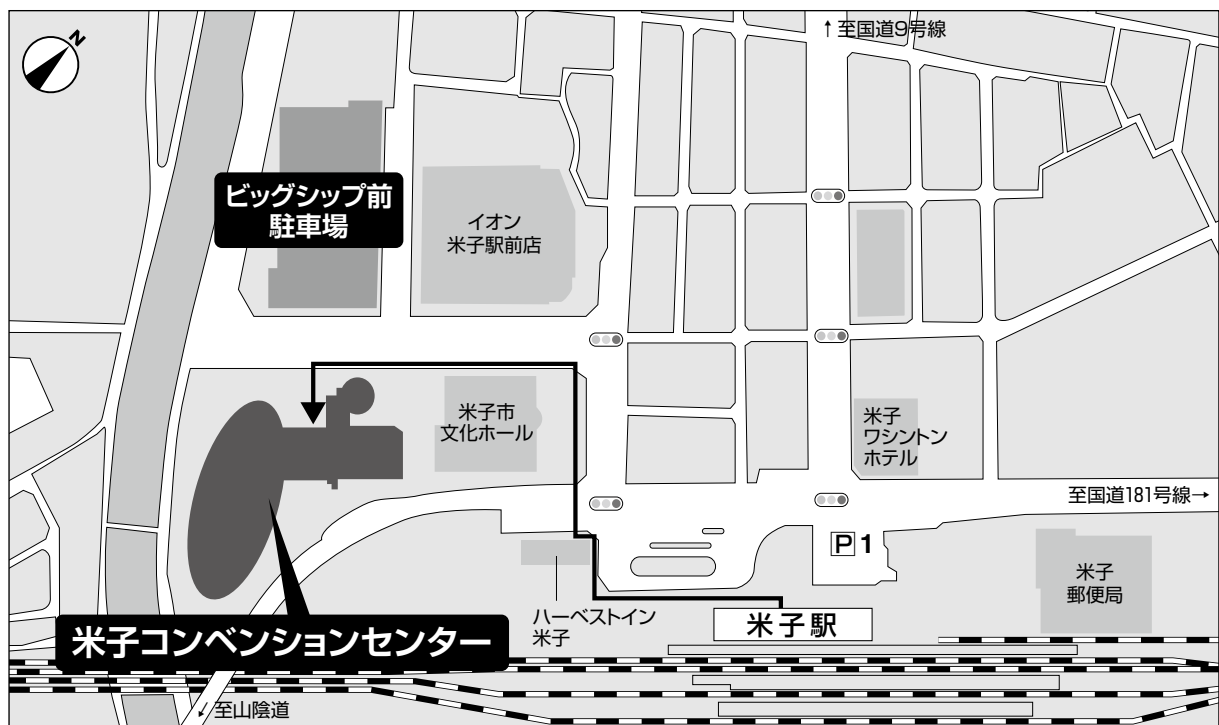
17:45～18:45 1階「レストラン ル・ポルト」

交通のご案内



■会場：米子コンベンションセンター BiG SHiP

〒683-0043 鳥取県米子市末広町294 TEL：0859-35-8111



●JR・高速バスをご利用の方 …… JR 米子駅から徒歩 5 分

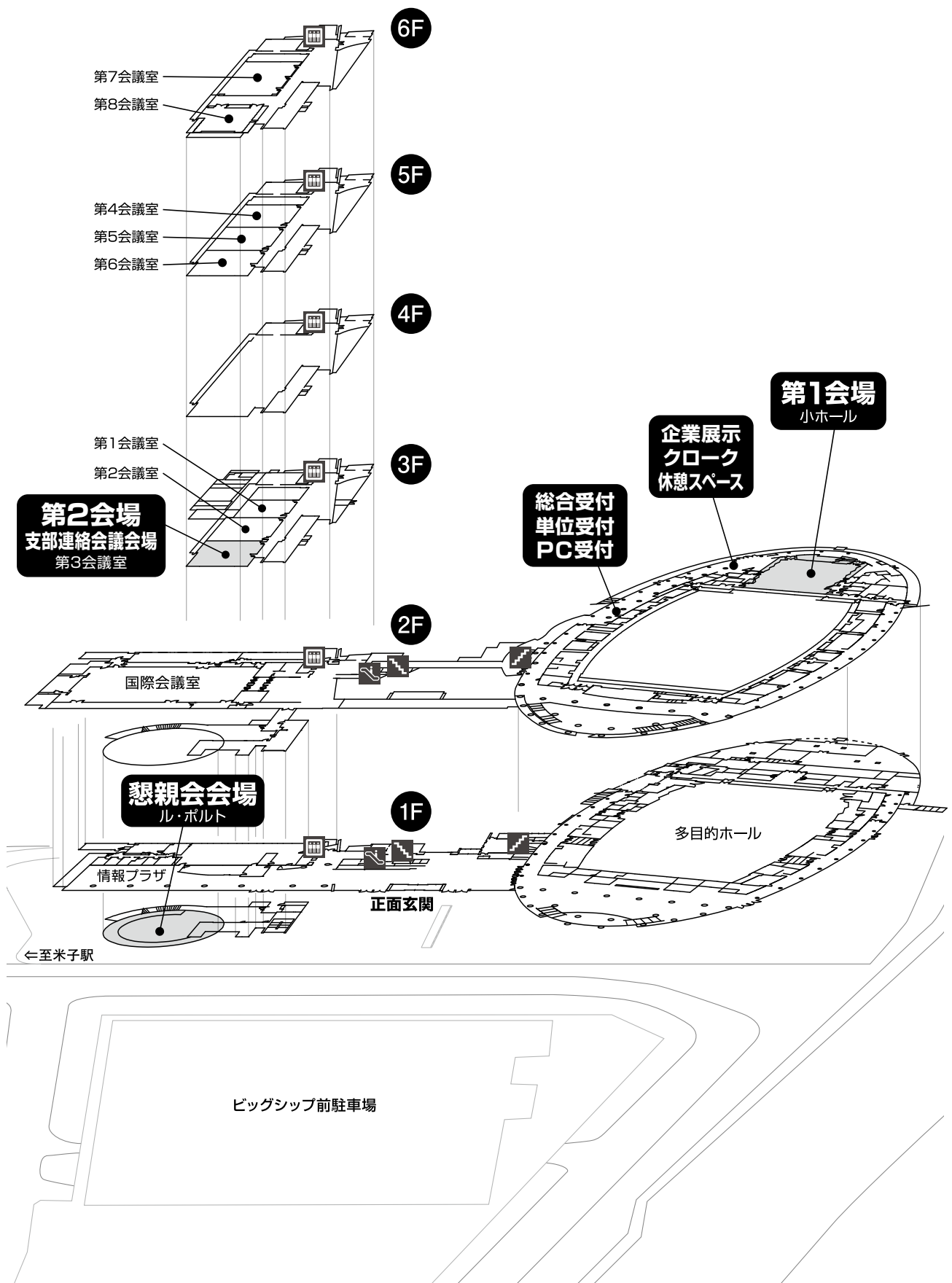
●お車をご利用の方

※米子自動車道米子 I.C から山陰自動車道（松江方面行き）経由
米子中 I.C から車で約 5 分

※松江方面からお越しの場合は、米子西 I.C を下りてください

ビッグシップ前駐車場をご利用の方は、駐車券の割引認証機の処理にて、大会開催時間分の駐車料金が無料となります。
会場内まで駐車券をご持参いただき、会場ごとに設置されている割引認証機に駐車券をお通しください。

会場案内図



参加者へのご案内

1. 参加受付

日 時：8月25日（土）11:30～17:00

場 所：総合受付（2F 小ホール前ロビー）

2. 参加費、抄録集販売など（現金受付のみ）

医 師・一 般 : 4,000 円

メディカルスタッフ : 2,000 円

学部学生・初期臨床研修医 : 無 料 ※証明書を呈示してください

プログラム・抄録集 : 1,000 円

- ・会場内では必ず参加証（兼領収書）に所属・氏名を記入のうえ、携帯してください。
- ・参加証（兼領収書）の再発行はできませんので、大切に保管してください。

3. 単位登録

受付時間：13:00～17:30

場 所：単位受付（2F 小ホール前ロビー）

日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医更新単位

内分泌代謝科専門医資格を取得されている方へは、ご出席により更新研修単位として5単位が付与されます。専門医カードによる受付は行いませんので、参加受付時にお渡しする単位登録票（2枚複写用紙）をご記入のうえ、受付時間内に単位受付へご提出ください。控えは大切に保管してください。受付時間外、代理の方のご登録はお受けできませんので、ご注意ください。演者加算、日本糖尿病学会等関連学会への単位加算には自己申告が必要となりますので、参加証を大切に保管してください。

日本医師会生涯教育制度

本会の「JES We Can・第19回中国支部学術集会共同企画パネルディスカッション」および「特別講演」への出席により、日本医師会生涯教育カリキュラムコード(CC)10(1.0単位)、15(1.0単位)の修得が可能です。希望される方は、出席者名簿へご署名ください。

4. クローク

時 間：11:30～17:45

場 所：2F 小ホール前ロビー

5. 懇 親 会

時 間：17:45～18:45

会 場：1F「レストラン ル・ポルト」

参加費：2,000円

参加ご希望の方は学会参加受付時に参加費をお支払いください。定員になり次第、受付を終了させていただきます。ご了承ください。

6. 関連会議のご案内

中国支部連絡会議：11:50～12:40 3F 第3会議室（第2会場）

中国支部総会：15:45～15:55 2F 小ホール（第1会場）

7. 休憩場所

企業展示会場付近に飲み物やお菓子とともに休憩場所をご用意いたします。講演会場内での飲食禁止、ごみの分別にご協力ください。

8. その他

会場内では、携帯電話をマナーモードに設定してください。

会場内は全面禁煙です。

許可の無い掲示・展示・印刷物の配布・録音・写真撮影・ビデオ撮影は固くお断りいたします。

座長・審査員・演者へのご案内

1. 発表時間

一般演題 発表5分、質疑3分

YIA 候補演題 発表7分、質疑3分

2. 座長の先生方へ

担当セッション開始予定時刻の30分前までに総合受付(2F 小ホール前ロビー)で受付を済ませ、15分前には会場右前方の「次座長席」にご着席ください。限られた時間内にて発表が円滑に進行するようにご配慮ください。

3. YIA 審査員の先生方へ

YIA 開始予定時刻の15分前までに総合受付(2F 小ホール前ロビー)にて受付をお願いいたします。セッション開始前に第1会場前方の審査員席へご着席ください。

4. 発表者の先生方へ

- 1) 発表開始30分前までにPC受付へお越しいただき、データの試写をお願いいたします。
- 2) ご自身が発表される前の演者が発表開始後、会場左前方の「次演者席」にご着席ください。
- 3) 当日は演台上にモニターとキーボード・マウスをご用意しておりますので、発表時の操作はご自身でお願いいたします。

【利益相反の開示】

会員、非会員の別を問わず、筆頭発表者は該当するCOI状態について、発表スライドの最初(または演題・発表者などを紹介するスライドの次)に情報開示をお願いします。

所定の様式は日本内分泌学会 HP (<https://square.umin.ac.jp/endocrine/hottopics/coi-index.html>) よりダウンロードできます。

【持込みデータのご案内】

- 1) 本学術集会の発表は、PCプレゼンテーションに限らせて頂きます。学会でご用意するPCは、Windows7 Microsoft Power Point 2010、2013、2016が動作します。
- 2) 発表データに使用するフォントはOSに標準搭載されているフォントを推奨いたします。
一例：MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝 英語：Times New Roman、Arial、Arial Black、Arial Narrow、Century、Century Gothic
- 3) プレゼンテーションデータに静止画・グラフ等のデータをリンクさせている場合は、データも必ず保存していただき、事前に動作確認を行ってください。
- 4) Power Pointの「発表者ツール」は使用できません。
- 5) コピーした発表データは、発表後に事務局が責任を持って消去いたします。
- 6) 上記以外のソフトや動画を使用する場合、およびMacでの発表者は、各自下記をご覧ください。PCをご用意ください。発表後、持込PCは会場内のPCデスクでお返しいたします。

【持込み PC のご案内】

- 1) 会場で用意する PC ケーブルコネクタの形状は、D-sub mini 15 ピンです。この出力端子を持つ PC をご用意いただくか、この形状に変換するコネクタを必ずご準備ください
- 2) 電源ケーブルもお忘れなくお持ちください。
- 3) 再起動をすることがありますので、パスワード入力は“不要”に設定してください。
- 4) スクリーンセーバーならびに省電力設定は事前に解除しておいてください。

主 催：日本内分泌学会中国支部

支 部 長：島根大学医学部 内科学講座内科学第一 杉本 利嗣

副支部長：鳥取大学医学部 小児・周産期医学 神崎 晋

事 務 局：島根大学医学部 内科学講座内科学第一 杉本 利嗣

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

第 19 回日本内分泌学会中国支部学術集会事務局

鳥取大学医学部 地域医療学講座

〒683-8503 鳥取県米子市西町 86

TEL：0859-38-6661 FAX：0859-38-6663

E-mail：jes-chugoku19@ml.med.tottori-u.ac.jp

	第 1 会 場 2F 小ホール	第 2 会 場 3F 第3会議室	小ホール 前ロビー
11:30			11:30)
12:00		11:50~12:40 中国支部連絡会議	企 業 展 示
13:00	13:00~13:05 開会挨拶 会長：谷口 晋一 13:05~13:30 一般演題 1 遺伝性内分泌疾患 座長：鬼形 和道（島根大学）		
14:00	13:30~14:30 JES We Can 第19回中国支部学術集会共同企画 パネルディスカッション 座長：黒崎 雅道（鳥取大学） 伊澤 正一郎（鳥取大学）	13:15~13:40 一般演題 2 副 腎 座長：沖 健司（広島大学病院） 13:40~14:05 一般演題 3 糖尿病 座長：谷澤 幸生（山口大学） 14:05~14:30 一般演題 4 甲状腺・産婦人科 座長：中村 康彦（山口県立総合医療センター）	
15:00	14:40~15:40 特別講演 座長：谷口 晋一（鳥取大学） 内分泌領域の核医学治療 最近のトピック 絹谷 清剛（金沢大学）		
16:00	15:45~15:55 中国支部総会		
17:00	16:00~16:25 一般演題 5 副甲状腺・骨代謝 座長：山本 昌弘（島根大学） 16:25~17:30 YIA候補演題 口演 座長：大塚 文男（岡山大学） 田中 弘之（岡山県済生会総合病院） 17:30~17:35 閉会挨拶 会長：谷口 晋一	16:05~16:30 一般演題 6 画像診断 座長：横田 敏彦（倉敷中央病院） 16:30~16:55 一般演題 7 下垂体 ① 座長：宗 友厚（川崎医科大学） 16:55~17:20 一般演題 8 下垂体 ② 座長：富永 篤（県立広島病院）	
18:00	17:45~18:45 懇 親 会 （会場：ル・ポルト）		

第 19 回日本内分泌学会中国支部学術集会
若手研究奨励賞
(Young Investigator Award : YIA)

座 長

大塚 文男 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 総合内科学分野

田中 弘之 岡山県済生会総合病院 小児科

審 査 員

支部長 杉本 利嗣 島根大学医学部 内科学講座 内科学第一

学会長 谷口 晋一 鳥取大学医学部 地域医療学講座

鳥 取 鞍嶋 有紀 鳥取大学医学部 周産期・小児医学

島 根 栗岡 裕子 島根県立中央病院 産科婦人科

岡 山 中西 修平 川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学

広 島 浅野 知一郎 広島大学大学院医歯薬学総合研究科
創生医科学専攻探索医科学講座 医化学研究室

山 口 奥屋 茂 山口大学大学教育機構 保健管理センター

第19回日本内分泌学会中国支部学術集会
プログラム

平成30年8月25日(土) 米子市

第1会場(2F 小ホール)

13:00～13:05

開会挨拶

会 長：谷口 晋一(鳥取大学医学部 地域医療学講座 教授)

13:05～13:30

一般演題1

[遺伝性内分泌疾患]

座長：鬼形 和道(島根大学医学部 卒後臨床研修センター)

01 複数科での連携により迅速に診断、治療を行えた MEN2A の1例

○西岡 もも代、辰巳 文則、岡内 省三、小原 健司、下田 将司、中西 修平、宗 友厚、
加来 浩平、金藤 秀明

川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学

02 PHP1a と臨床診断されていた母より出生した PHP1b の女児例

○西村 玲¹⁾、山口 由起子¹⁾、宮原 直樹¹⁾、鞍嶋 有紀¹⁾、花木 啓一²⁾、神崎 晋¹⁾

1)鳥取大学医学部 周産期・小児医学分野、2)鳥取大学医学部 保健学科 母性・小児家族看護学分野

03 ビタミンD 依存性くる病2A 型の男児例

○長谷川 高誠¹⁾、二川 奈都子¹⁾、樋口 洋介¹⁾²⁾、塚原 宏一²⁾

1)岡山大学病院 小児科、2)岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 小児医科学

13:30～14:30

JES We Can・第19回中国支部学術集会共同企画

座長：黒崎 雅道(鳥取大学医学部 脳神経外科学)

伊澤 正一郎(鳥取大学医学部 病態情報内科学分野)

パネルディスカッション

「内分泌疾患の手術を円滑に行うための診療科連携」

ディスカッサント：

「円滑な手術導入にあたり、内科医ができること」

三好 智子(岡山大学医歯薬総合研究科附属 医療教育センター／岡山大学病院 卒後臨床研修センター)

「最近の下垂体手術」

木下 康之(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 脳神経外科学)

「分子標的薬時代の甲状腺癌診療」

正木 千恵(伊藤病院 外科)

「当院における鏡視下副腎摘除術の実際」

岩本 秀人(鳥取大学医学部 腎泌尿器学分野)

「内分泌領域の核医学治療 最近のトピック」

絹谷 清剛 先生 金沢大学医薬保健総合研究科医学系 核医学

[副甲状腺・骨代謝]

13 骨代謝マーカーが診断契機となった多発性骨髄腫の1例

○和田 里美、野津 雅和、榎野 裕文、田中 賢一郎、田中 小百合、守田 美和、
金沢 一平、山本 昌弘、山内 美香、杉本 利嗣

島根大学医学部 内科学講座内科学第一

14 生理的O脚として経過観察されていたビタミンD欠乏性くる病の1例

○鞍嶋 有紀¹⁾、掛江 壮輔¹⁾、澤 由起子¹⁾、西村 玲¹⁾、辻 靖博²⁾、田中 雄二²⁾、
花本 啓一¹⁾、神崎 晋¹⁾

1)鳥取大学医学部 周産期・小児医学、2)松江市立病院 小児科

15 大腿骨頸部骨折を契機に診断された若年女性クッシング症候群の1例

○伊藤 慶彦¹⁾、井上 愛子¹⁾、岡本 健太郎²⁾、川島 彰透²⁾、天野 綾³⁾、浜松 圭太²⁾、
岡崎 恭子¹⁾、西澤 衡¹⁾、村部 浩之¹⁾、横田 敏彦¹⁾

1)倉敷中央病院 内分泌代謝・リウマチ内科、2)京都大学大学院 糖尿病・内分泌・栄養内科学、

3)国立病院機構 京都医療センター 内分泌・代謝内科

YIA-1 妊娠・出産を繰り返し、カベルゴリン内服中止の間に下垂体出血をきたした
プロラクチン産生腫瘍の1例○芝尾 茉莉子¹⁾²⁾、野津 和巳¹⁾³⁾、並河 哲志¹⁾、伊東 康男¹⁾、杉本 利嗣²⁾

1)島根県立中央病院 内分泌代謝科、2)島根大学医学部 内分泌代謝科、3)大学前のつ内科クリニック

YIA-2 出血により高PRL血症を呈した胸髄海綿状血管腫の1例

○森本 栄作、稲垣 兼一、原 孝行、藤澤 諭、越智 可奈子、三好 智子、
大塚 文男、和田 淳

岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科／内分泌センター／総合内科

YIA-3 妊娠を契機に発症したプランマー病の1例

○野津 雅和、竹谷 海、田中 賢一郎、田中 小百合、守田 美和、金沢 一平、
山本 昌弘、山内 美香、杉本 利嗣

島根大学医学部 内科学講座 内科学第一

YIA-4 コルチゾール日内変動の評価における夜間 ACTH 値の有効性 ～副腎偶発腫瘍症例の検討から～

○馬場 隆太、沖 健司、小武家 和博、一町 澄宜、大久保 博史、大野 晴也、
米田 真康

広島大学病院 内分泌・糖尿病内科

YIA-5 不妊治療を契機に診断に至った副腎 Oncocytic tumor の1例

○小倉 有李子¹⁾、伊澤 正一郎¹⁾、松本 和久¹⁾、松澤 和彦¹⁾、大倉 毅¹⁾、
引田 克弥²⁾、本田 正史²⁾、武中 篤²⁾、谷口 晋一³⁾、山本 一博¹⁾

1) 鳥取大学医学部 病態情報内科学分野、2) 鳥取大学医学部 腎泌尿器学分野、

3) 鳥取大学医学部 地域医療学講座

YIA-6 MEN1 に合併し血圧上昇と低 K 血症を来した副腎皮質癌 myxoid variant の1例

○安田 美帆¹⁾、長谷川 功¹⁾、三好 智子¹⁾、吉田 龍一²⁾、小林 泰之³⁾、那須 保友³⁾、
山崎 有人⁴⁾、笹野 公伸⁴⁾、大塚 文男¹⁾

1) 岡山大学病院 総合内科、2) 岡山大学病院 肝胆膵外科、3) 岡山大学病院 泌尿器科、

4) 東北大学大学院 病理診断学分野

17:30～17:35

閉会挨拶

会 長：谷口 晋一（鳥取大学医学部 地域医療学講座 教授）

11:50～12:40 中国支部連絡会議

13:15～13:40 一般演題2

[副 腎]

座長：沖 健司(広島大学病院 内分泌・糖尿病内科)

04 鬱血性心不全を合併したクッシング症候群の一例

○半田 祐喜¹⁾、児玉 堯也²⁾、佐川 純司²⁾、壺井 知子²⁾、小武家 和博²⁾、一町 澄宜²⁾、
大久保 博史²⁾、大野 晴也²⁾、沖 健司²⁾、米田 真康²⁾

1) 広島大学病院 卒後臨床研修センター、2) 広島大学病院 内分泌・糖尿病内科

05 副腎偶発腫瘍として発見された ACTH 非依存性大結節性副腎皮質過形成の一例

○安東 史博、村尾 和良、檜崎 晃史

鳥取県立中央病院

**06 超音波画像から疑い診断し得た明らかなカテコラミン過剰のない
無症候性褐色細胞腫の一例**

○菅 勇貴、辰巳 文則、岡内 省三、小原 健司、下田 将司、中西 修平、宗 友厚、
加来 浩平、金藤 秀明

川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学

13:40～14:05 一般演題3

[糖尿病]

座長：谷澤 幸生(山口大学大学院医学系研究科 病態制御内科学)

07 バセドウ病と抗 GAD 抗体陽性 1 型糖尿病を併発した 1 例

○児玉 福美、櫻木 哲詩、庄司 恭子、本田 彬、松澤 和彦、伊澤 正一郎、宮本 美香

山陰労災病院 糖尿病・代謝内科

08 2 型糖尿病の加療中に発症した ACTH 単独欠損症

○能野 翔太、松村 卓郎、富永 貴元、井上 康

山口県立総合医療センター 内分泌内科

09 糖尿病性ケトアシドーシス発症時にたこつぼ型心筋症を併発した肺小細胞癌の 1 例

○檜崎 晃史¹⁾、安東 史博¹⁾、村尾 和良¹⁾、陶山 久司²⁾、影嶋 健二³⁾、菅 敏光³⁾、
那須 博司³⁾、吉田 泰之³⁾、門脇 佳名子⁴⁾、岡本 勝⁴⁾

1) 鳥取県立中央病院 糖尿病・内分泌・代謝内科、2) 鳥取県立中央病院 腫瘍内科、

3) 鳥取県立中央病院 心臓内科、4) 鳥取県立中央病院 総合内科

[甲状腺・産婦人科]

座長：中村 康彦（山口県立総合医療センター 産婦人科）

10 胎児甲状腺腫を認めたバセドウ病合併妊娠の一例

○三輪 照未、浅田 裕美、中村 康彦

山口県立総合医療センター 産婦人科

11 未治療バセドウ病のため妊娠中に心不全をきたし緊急帝王切開術を施行した1例○岡田 裕枝¹⁾、栗岡 裕子¹⁾、並河 哲志²⁾、吉田 雅昭³⁾、小田 強³⁾、江川 恵子¹⁾、
山上 育子¹⁾、西村 淳一¹⁾、奈良井 曜子¹⁾、森山 政司¹⁾

1) 島根県立中央病院 産婦人科、2) 島根県立中央病院 内分泌代謝科、3) 島根県立中央病院 循環器科

12 胞状奇胎に伴い甲状腺機能亢進症と心不全をきたした一例

○大田垣 裕、宮原 弥恵、稲垣 沙織、亀井 望

広島赤十字・原爆病院 内分泌・代謝内科

[画像診断]

座長：横田 敏彦（倉敷中央病院 内分泌代謝・リウマチ内科）

**16 軽微な甲状腺機能検査異常を契機に下垂体 MRI を実施し、
下垂体生検でリンパ球性汎下垂体炎と診断しえた1例**○北尾 苑子¹⁾、伊澤 正一郎¹⁾、小椋 貴文³⁾、伊藤 祐一¹⁾、松本 和久¹⁾、松澤 和彦¹⁾、
大倉 毅¹⁾、黒崎 雅道³⁾、谷口 晋一²⁾、山本 一博¹⁾1) 鳥取大学医学部 病態情報内科学分野、2) 鳥取大学医学部 地域医療学講座、
3) 鳥取大学医学部 脳神経外科学分野**17 特異な進展を示した ACTH 産生下垂体腺腫の一例**

○迫口 哲彦、富永 篤、竹下 真一郎、岐浦 禎展、籬 拓郎、近藤 浩、前田 雄洋

県立広島病院 脳神経外科・脳血管内治療科

18 FDG の著明な取り込みを呈した縦隔に達する甲状腺腫の1例○岡 浩介¹⁾、安田 美帆¹⁾、長谷川 功¹⁾、三好 智子¹⁾、小比賀 美香子¹⁾、花山 宜久¹⁾、
細谷 武史²⁾、平 成人³⁾、大塚 文男¹⁾

1) 岡山大学病院 総合内科、2) 岡山大学病院 内分泌センター、3) 岡山大学病院 乳腺内分泌外科

[下垂体①]

座長：宗 友厚（川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学）

19 健康診断で指摘された低血糖を契機に診断した Sheehan 症候群の一例○門脇 佳名子¹⁾、岡本 勝¹⁾、三原 周¹⁾、井上 直也²⁾、中瀬 一希¹⁾、遠藤 功二¹⁾、
安東 史博³⁾、村尾 和良³⁾、檜崎 晃史³⁾

1) 鳥取県立中央病院 総合内科、2) 岩美町国民健康保険 岩美病院、

3) 鳥取県立中央病院 糖尿病・内分泌・代謝内科

20 頭蓋咽頭腫術後の経過観察中に脳梗塞を発症した1例○小椋 貴文¹⁾、神部 敦司¹⁾、坂本 誠¹⁾、黒崎 雅道¹⁾、伊澤 正一郎²⁾

1) 鳥取大学医学部 脳神経外科、2) 鳥取大学医学部 病態情報内科

21 プラチナ製剤投与にて抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (SIADH) を発症した2症例

○白蓋 雄一郎、中島 健吾、梶邑 匠彌、末岡 幸太郎、杉野 法広

山口大学医学部附属病院 産婦人科

[下垂体②]

座長：富永 篤（県立広島病院 脳神経外科）

22 キスペプチンの下垂体プロラクチン産生細胞に対する直接作用について

○原 友美、金崎 春彦、折出 亜希、Tuvshintugus Tumurrbaatar、岡田 裕枝、京 哲

島根大学医学部附属病院 産科婦人科

23 オクトレオチド LAR からパシレオチド LAR に切り替えた先端巨大症の2例○檀原 尚典¹⁾、廣谷 茜²⁾、久代 昌彦¹⁾、谷水 將邦¹⁾

1) 鳥取市立病院 内科、2) 同 総合診療科

24 治療に難渋した若年の先端巨大症の一例○藤本 留理子¹⁾、竹田 孔明¹⁾、近藤 学¹⁾²⁾、秋山 優¹⁾、山田 正三³⁾、谷澤 幸生¹⁾

1) 山口大学医学部附属病院 第三内科、2) 山口赤十字病院 内科、

3) 東京脳神経センター病院 間脳下垂体センター

懇親会場 (ル・ポルト)

抄 録

特 別 講 演

JES We Can・第19回中国支部学術集会共同企画

YIA 候補演題口演

一 般 演 題

内分泌領域の核医学治療 最近のトピック

絹谷 清剛

金沢大学医薬保健総合研究科医学系 核医学

5年に一度行われる核医学診療実態調査(日本アイソトープ協会)での情報(本稿準備中には未公開)をみると、甲状腺癌内用療法(RAI)実施数増加が見て取れる。日本甲状腺外科学会・日本内分泌外科学会編集の甲状腺腫瘍診療ガイドライン発表、30mCi 外来投与による甲状腺癌外来アブレーションの実施開始、RAI 不応性患者に対する分子標的薬承認などによって、甲状腺癌患者のマネジメントは近年大きく変化したと感じる。

昨年一年間のRAI実施数は約4,500件で、のうち約1,650件が外来投与によるものである。数年前に入院によるRAI実施は3,000件ほどで全国的に限界にきているであろうと予測していたが、今回の調査データはそれを裏付けている。外来アブレーションが認可された時には、放射線治療病室の不足のため全国平均で約半年の待機が必要であった。ガイドラインによる診療が根付くにつれ、RAIへの要求が増大したため実施総数が増え、病室待機時間改善には至らなかったが、分子標的薬承認後には、RAI不応性の判断が徐々に浸透し、少なからぬ患者で分子標的薬への治療方針転換が行われたことによって、待機時間が短縮傾向にある。

さて、本学会開催時点では、ガイドライン改訂版が上梓されていることと思う。新ガイドラインでは、RAI定義が、2015年の米国甲状腺学会ガイドラインに準じて整理された。従来アブレーションと称して行われていたRAIは、甲状腺全摘後に病巣残存がなく、再発リスクの低い患者群と、微少残存病巣が疑われる再発リスクの高い群が混在したものであった。前者は、正常濾胞細胞を除去することによって、その後の管理を容易にするのが主目的であるのに対して、後者は管理の容易さを得ることに加え、再発予防を期待して行われるものである。世界的な流れとして、これらを分けて管理することが求められるようになっており、改訂ガイドラインでもこの二つを、前者を“アブレーション”、後者を“アジュバント(補助療法)”と分け

て定義した。従来アブレーションと称して行われてきたものは、少なくとも国内ではほとんどが“アジュバント”に相当する。病床数が不足しているため、すぐに改訂ガイドラインに沿った運用をするのは困難であるが、現在、外来100mCi投与承認に向けて“甲状腺癌に対する放射性ヨウ素($I-131$)内用療法:1,110MBq(30mCi)を超える線量による外来治療における安全管理に関する研究”を実施中である。

分子標的薬使用の前提である、RAI不応性の評価は、ある一つの事象で決まるものではない。また、多くの場合、ある一時点でのCT/US/MRI、PET、サイログロブリン等々の評価によって決まるものでもない。不応性の考え方を提示したい。

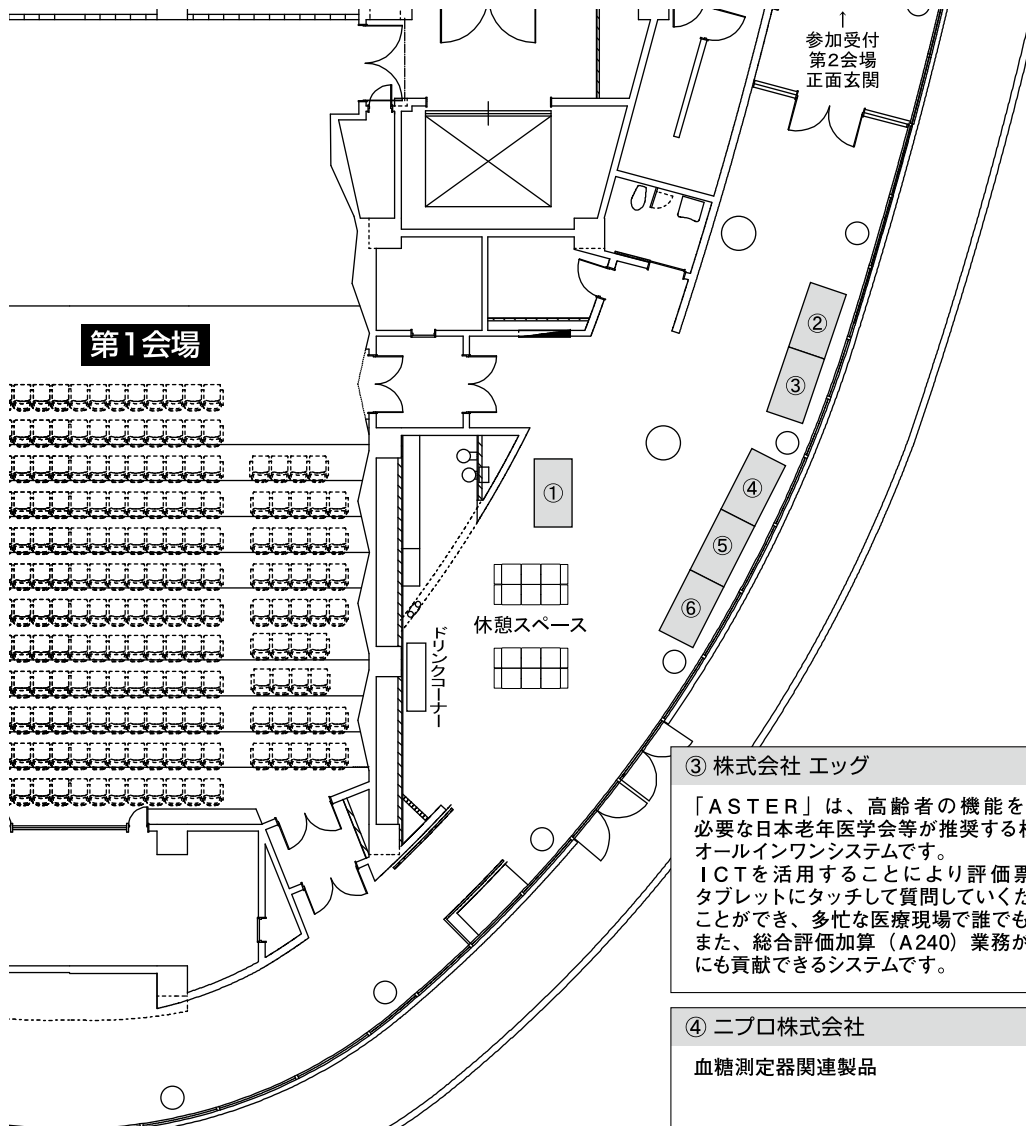
^{223}Ra の例でわかるように、 α 線核種の臨床応用が国際的に強力に進められている。 α 線悪性褐色細胞腫に対する ^{131}I -MIBG治療は現在先進医療Bとしての実施を終了し、昨年11月から第2相企業治験が開始された。神経芽腫MIBG治療は、別プロトコルの先進医療昨年6月に承認を受け開始されている。また、悪性神経内分泌腫瘍(NET)に対する ^{177}Lu -PRRT(ソマトスタチン受容体をターゲットにする)治療は、昨年ヨーロッパで、本年に入ってから米国で承認され、国内では現在第1/2相企業治験が進行中である。

長年にわたって、日本核医学会は内用療法環境改善・開発推進を関連当局に要望してきた。その目的のために、学会・アカデミア・関連企業・アイソトープ協会・患者会を含めた“核医学診療推進国民会議”の構想が畑澤理事長より提案・設立され、2016年12月より活動を開始した。その直近第一の目標は、 ^{177}Lu -DOTATATEの早期承認である。

昨年10月に公布された第3期がん対策推進基本計画に、初めて核医学治療の文言が入り、さらに“がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針”のなかに核医学治療の要件が盛り込まれようとしている。将来、新規内用療法開発・国内導入を進めることができるものと期待するところである。

Blank lined paper with horizontal dashed lines for writing.

展示企業紹介



① 株式会社 今井書店 外販部

今井書店外販部は山陰両県6箇所（鳥取、倉吉、米子、松江、出雲、浜田）に拠点を持ち、学校様、官公庁様、病院様、企業様とお取引をさせていただいております。

今井書店で取り扱いのある本、教科書、テキスト、CD、文具、雑貨等に関し、職場への配達対応を致します。

- ・公費・会社経費によるご購入や私費でのご購入
- ・新規開業店舗での定期雑誌購入（御社のニーズに合った雑誌をご提案します）
- ・学会、講演会での出張販売

などのご用命は、ぜひ外販部へご相談ください！

URL <https://www1.imaibooks.co.jp>

② ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

○ISO15197:2013 に準拠した血糖測定器

- ・大きなカラー画面と文字で見やすく使いやすいワンタッチベリオビュー
- ・コンパクトボディで持ち運びやすいワンタッチベリオIQ

○痛みの軽減を追求した穿刺器具ワンタッチアクロ

○検査室並みの精度を実現した院内専用測定器スタートストリップ

エクスプレス グルコース ケトン

上記の他に普段の療養指導や糖尿病教室などでもお使いいただける患者様向け資材もご用意しております。

URL <http://www.jnj.co.jp/jjmkk/lifescan>

③ 株式会社 エッグ

「ASTER」は、高齢者の機能を総合的に評価するために必要な日本老年医学会等が推奨する様々な評価シートを搭載したオールインワンシステムです。

ICTを活用することにより評価票の事前準備も必要なく、タブレットにタッチして質問していくだけで自動集計・評価を行うことができ、多忙な医療現場で誰でも、簡単に測定が出来ます。また、総合評価加算（A240）業務が簡単に行え、病院経営改善にも貢献できるシステムです。

④ ニプロ株式会社

血糖測定器関連製品

URL <https://www.nipro.co.jp/>

⑤ 株式会社 日立製作所

ARIETTA70は様々な超音波検査ニーズに応える汎用性の高い装置であり、2～3次医療施設での精査に使用できます。

1. コンパクト、高画質：信号の生成から送受信、信号処理、画像表示まで新しい最適化設計のもとコンパクトで高画質な装置を実現。
2. 多彩な機能：組織の歪みをリアルタイムに画像化し硬さの情報を提供するReal-time Tissue Elastographyを搭載。
3. エルゴノミクス：長時間の使用でストレスがないようにモニター及びパネルの可動範囲を広く設計。

URL <http://www.hitachi.co.jp/products/healthcare>

⑥ ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社は、ヘルスケアのグローバルカンパニー「ロシュ」の診断薬事業部門日本法人です。当社は臨床検査のうち、生化学・免疫学・遺伝子学、病理学など幅広い検査技術を用い、より早く、より正確な検査結果が得られる臨床検査システムの世界的なリーダーとして、「効率的な検査」と「医学的価値ある検査」を提供いたします。本学会では内分泌検査に関わる当社製品をご紹介します。

URL <https://www.roche-diagnostics.jp/>

協賛企業・団体一覧（五十音順 敬称略）

アステラス・アムジェン・バイオフーマ株式会社
アステラス製薬株式会社
一般財団法人 恵仁会
江尾診療所
MSD 株式会社
株式会社エッグ
株式会社ファイザー
協和発酵キリン株式会社
中外製薬株式会社
日本イーライリリー株式会社
ノボ ノルディスクファーマ株式会社
日野病院組合 日野病院

（平成30年7月2日現在）

広告掲載企業一覧（掲載順 敬称略）

エーザイ株式会社	アークレイマーケティング株式会社
株式会社三和化学研究所	あすか製薬株式会社
株式会社ヤクルト本社	アステラス製薬株式会社
協和発酵キリン株式会社	アストラゼネカ株式会社
第一三共株式会社	アボット ジャパン株式会社
大正富山医薬品株式会社	MSD 株式会社
大日本住友製薬株式会社	科研製薬株式会社
武田薬品工業株式会社	興和創薬株式会社
田辺三菱製薬株式会社	サノフィ株式会社
日本イーライリリー株式会社	JCR ファーマ株式会社
ノバルティスファーマ株式会社	中外製薬株式会社
富士フィルム RI ファーマ株式会社	帝人ファーマ株式会社
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社	テルモ株式会社
	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
	ニプロ株式会社
	バイエル薬品株式会社
	フィリップス・レスピロニクス合同会社

第19回日本内分泌学会中国支部学術集会
プログラム・抄録集

会 長：谷口 晋一

事務局：鳥取大学医学部 地域医療学講座

〒683-8503 鳥取県米子市西町86

TEL：0859-38-6661 FAX：0859-38-6663

E-mail: jes-chugoku19@ml.med.tottori-u.ac.jp

出 版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

<http://www.secand.jp/>

